

1 教職員による学校運営評価

1) 評価表

評価の категорияは9領域（48項目）です。各項目は、「5；できている～1；できていない」の5段階で評価しました。

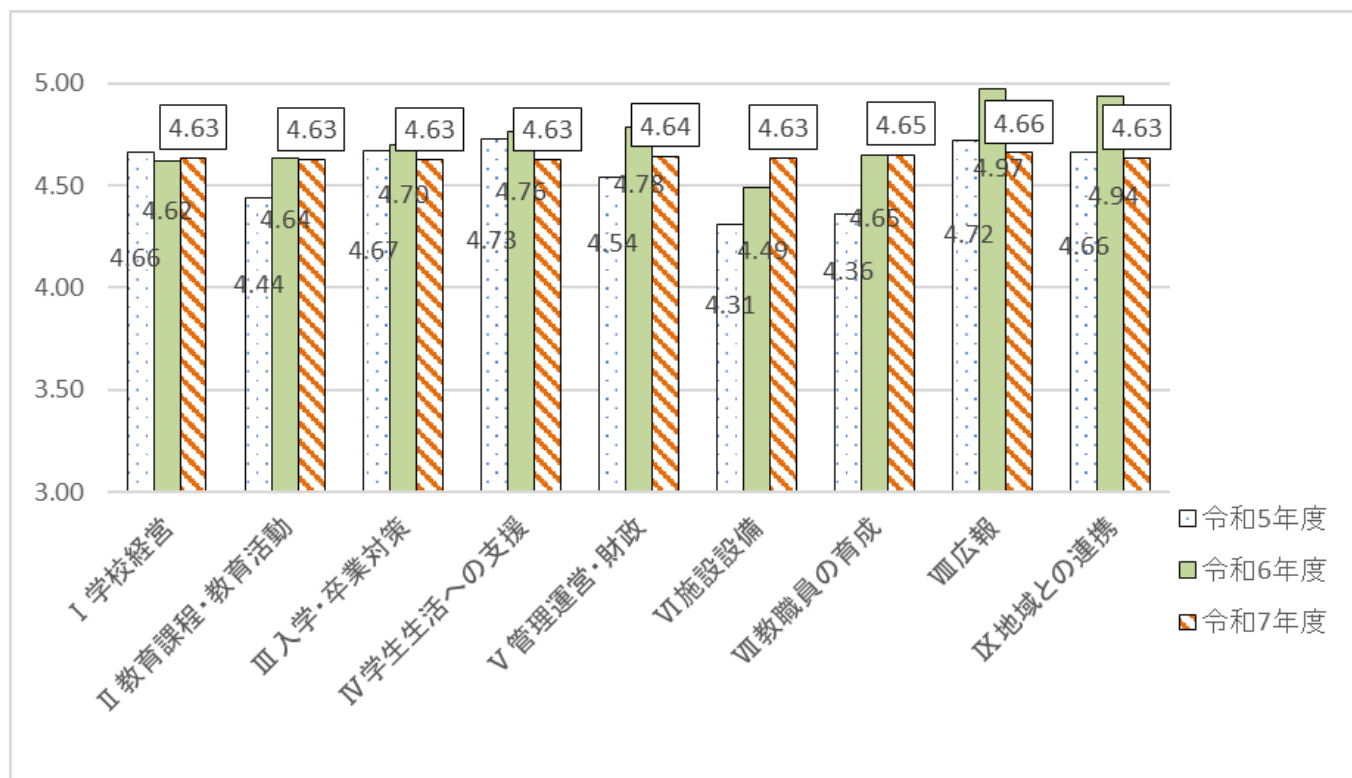


図1 教職員による学校運営評価カテゴリー別平均

2) 全体の結果

I～IXのカテゴリー別平均の推移は図1の通りです。平均の高い順にみると「VIII広報」（4.66）、「VII教職員の育成」（4.65）、「V管理運営・財政」（4.64）、「I学校経営」「II教育課程・教育活動」「III入学・卒業対策」「IV学生生活への支援」「VI施設設備」「IX地域との連携」はすべて4.63でした。

すべてのカテゴリーで4以上となっております。

3) 教育課程・教育活動

地域と連携し地域から学ぶ授業や、実践的な学びをする基礎看護技術の授業、多職種連携を強化した授業、各看護学を横断し看護実践につなぐ授業を行っています。また、シミュレーション教育や臨地実習を通して、考える力や多職種と連携する力を身につけ、保健・医療・福祉システムの中で活躍できる看護師をめざして学習しています。学生が主体的に課題に取り組む授業や、学生自身が外部の方と調整して行なう授業などでは、状況を考えながら対応する力を養っています。今後も「つながる力」などチームで協働する力を身につけられるよう支援していきます。

4) 地域と連携した授業やボランティア活動

地域と連携した授業では、1年生の地区踏査の授業で、10地区の民生委員や区長を中心にご協力いただき、そのつながりから学生が地域の活動に参加しています。また、市内7か所で暮らしの保健室を実施しました。文化祭では、保健所や市役所など行政の協力を得て、地域の方々に対して、いわき市の健康課題についての健康教室を開催しました。

ボランティアは、ボランティアクラブを中心に学生が主体となって活動しています。ボランティアを通して、様々な人とのコミュニケーションや関わりから、地域の方々の生活や価値観に触れ、その人らしい生活を支える個別性のある看護に繋がっています。さらに、今年度いわき市で発足した機能別消防団に33名が入団するなど、積極的に社会活動を行っています。

5) 看護師国家試験合格率 100%

今年度、国家試験合格率は100%でした。臨地実習は実習施設のご協力のもと、患者さんや臨床指導者より多くの学びをいただきました。学生間交流グループではサポート教員による国家試験に向けた学習支援を1年次より行い、教員は学生個々の学習状況を分析し、指導に生かしています。

学年担当教員による定期的な面接に加えて、スクールカウンセラーによるカウンセリング、教職員全員で学生生活を心身ともに支え、学習支援に取り組んでいます。

6) 教職員の育成

福島県看護学校協議会主催の学外短期教育研修では、1名受け入れをしました。また、研究授業を実施し、良かったところ、ステップアップするための意見交換を行い、教員間でより良い授業になるように検討しました。研修報告会も計画的に実施し、教員間で活発に意見交換し、研修内容を共有しました。福島県看護協会学会委員やいわき支部教育委員長としての協力、福島県看護協会主催の福島県実習指導者講習会の講師も務め、学外活動を通して個々の能力を高めることにも繋がりました。

【学会発表】

- 1) 平澤由希子 新國 香：看護学生の社会人基礎力に関する自己評価と他者評価の比較検討，第56回日本看護学会学術集会 2025年.
- 2) 八木美恵子 手戸邦江：地域包括ケアシステムと認知症高齢者への関わりへの理解一段階的学習に基づく領域横断実習の効果―，令和7年度福島県看護協会いわき支部看護発表会.

2 学校生活に対する卒業時アンケート

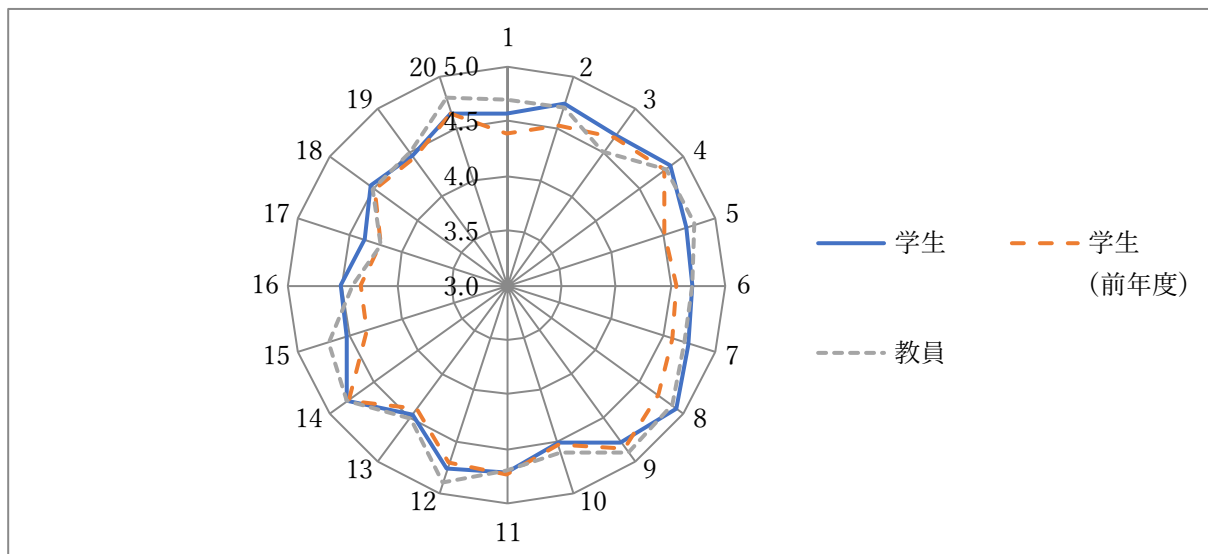


図2 学校生活に関するアンケート—教職員の学校運営評価との対比— ※項目内容は最後尾に記載

【結果のまとめ】20項目の平均は4.6（R5年度4.6、R6年度4.6）でした。前年度と比較し得点が高い項目は12項目（1、2、5、6、7、8、12、13、15、16、17、19）、それ以外の項目は同得点であり、前年度より得点が低い項目はありませんでした。すべての項目が4.0以上であり、ほとんどの学生が3年間の学校生活に満足していると考えます。

Ⅱ教育課程・教育活動の7項目中5項目は前年度より得点が高くなりました。R4年度から開始された新カリキュラム運用に関する課題に対して、授業内容等を見直し取り組んだ結果と考えます。

Ⅲ入学・卒業対策の「国試対策の取り組み」は4.9と一番高い得点でした。国家試験対策担当と協力して学生間交流グループ（SSC）のサポート教員としての体制が整備され、学生個人の学習状況の確認や能力に応じた支援を行い、熱意が学生にも伝わったと考えます。

Ⅳ学生生活への支援「ボランティア」は2番目に高い4.8でした。ボランティアクラブを発足し、ボランティア活動に積極的に取り組んだためと考えます。

Ⅵ施設設備の「校舎の点検、適正な整備」は4.5でした。例年得点が低い項目ではありますが、今年度はトイレの洋式化や雨漏り箇所の一部を修繕しました。校舎内の老朽化が進み修理困難な状況もあります。現状をその都度説明しながら点検を継続し適正に整備を行っていきたいと思います。

Ⅷ広報活動として、公式キャラクターの誕生、ホームページの刷新、インスタグラムの開設など学校のPRにも努めました。

*図2「学校生活に関するアンケート」の設問内容については下記をご参照下さい。

(Ⅱ～Ⅷは、アンケート項目に対応する学校運営評価のカテゴリーを表す)

Ⅱ 教育課程・教育活動に関する項目

- 1 学生便覧に記載されているシラバス(授業内容)は、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致している。
- 2 授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善している。
- 3 実習目標に沿った病棟の選択及び、学習環境・指導体制が整っている。
- 4 実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者等の同意を得た上で、実施している。
- 5 実習において、学生が関係したインシデント(ヒヤリ・ハット体験、事故報告)等を把握・分析しているとともに、改善策を講じている。
- 6 授業改善に努める目的で、学生による授業評価(講義・臨地実習)を実施している。
- 7 学生指導において、学生に対して人権への配慮がされている。

Ⅲ 入学・卒業対策に関する項目

- 8 国試対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど教職員一丸となって取り組んでいる。
- 9 学生の進路決定率を高めるよう努めている。

Ⅳ 学生生活への支援に関する項目

- 10 学生の心身面での健康管理体制が整っている。
- 11 学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分応じている。
- 12 学生がボランティアなどの社会活動へ積極的に参加できるよう努めている。
- 13 教育・学習活動に関する情報提供を保護者等に行い、支援を得ることにつながっている。

Ⅴ 管理運営・財政に関する項目

- 14 災害など非常時の危機管理体制が整っている。
- 15 学校運営などに学生の意見が反映されている。

Ⅵ 施設設備に関する項目

- 16 校舎を定期的に点検し、適正な整備を行っている。
- 17 校舎はバリアフリーに配慮された構造になっている。
- 18 教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており、活用されている。
- 19 学生のために、休息、親睦及び交流等を行うためのスペースが設けられている。

Ⅷ 広報に関する項目

- 20 看護師養成所としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。